

2023 年
ご降誕号

ホームページ用

カトリック笹丘教会ニュース
No.0109



命に通じる門はなんと狭く、その道も細いことか。それを見いだすものは少ない。(マタイ7・14)



カトリック鳥栖教会所属 稲葉人志氏作

現物をホームページ用に作成し直しております。許可を得ていない写真は削除しております。2 ページ(敬老会の記事)はほとんど写真であるためページごと削除



Merry Christmas!!



It is truly a miracle that God chose to redeem us by becoming a human person himself in the person of Jesus on the first Christmas. God came down into our world to share our life-with all its good times and bad times. Jesus was born as a poor child, became a homeless preacher, and was executed as a criminal. He had loving parents, enjoyed deep friendships and took part in weddings and funerals.

Whatever good or bad things we experience in our lives, we know that Jesus also experienced these same things in his life. Jesus's earthly life is a proof that God understands both the glory and the travail of being human. Our Lord put on our flesh in order to experience the joys and the trials of our humanity-to walk together with us. St. Augustine remarks that Jesus wants to cure us of the wounds inflicted by our sinfulness and he becomes our doctor who has already sipped a cup of bitter medicine so that we the sick may not fear to drink it. When St. Augustine thinks of Christmas he meditates on the humility of God who willingly chooses to take on the burden of humanity. God wants to be at our side as the doctor who heals us from all that leads us to sickness and death. St. Augustine reminds us that Christmas is not just a season of parties and gifts but it is a graced filled day on which we are given a physician who can truly heal our every wound and who leads us to a life of perfect happiness. Let us give thanks for this Christmas miracle. Merry Christmas to one and all!

Michael Hilden, O.S.A.



主任司祭 マイケル・ヒルデン

私たちがあがなうため、神様が最初の降誕祭にイエスという人間になられたのは、誠に奇跡です。神様は、私たちの人生の良い時もつらい時も分かち合うためにこの世に降りました。イエス様は、貧しい赤ちゃんとして生まれ、放浪の説教者となり、そして犯罪者として処刑されました。愛情に満ちた両親がそばにいて、深い友情を楽しんだ上で結婚式やお葬式にも参加しました。

私たちは人生においてどんなに良いことや悪いことを経験しても、イエス様も全く同じことを経験したと確信しています。イエス様が私たちと共にこの世で実際に暮らしていたことは、最高の喜びから労苦まで、人間が味わう全ての体験を神様が理解している証しです。私たちと共に歩みながらその幸せや試練を全て経験するために主は人間の姿になりました。聖アウグスチノが述べたようにイエス様は、私たちが罪深さのせいで負っている「心の傷」を治したくて、また「罪」という病気を抱えている私たちにとって必要とされている苦い薬を恐れずに飲めるように、イエスがその苦い薬をすでに飲んだ「医師」となってくださいます。聖アウグスチノは、降誕祭に心を寄せる際に人類の重荷を喜んで背負われる神様の謙虚さを黙想しました。神様は、私たちのそばにいて病や死に至る全ての罪を治す医師になりたいと思われています。クリスマスが単にパーティーやプレゼントのための日ではないと、聖アウグスチノが私たちに伝えてくださいました。むしろ、降誕祭は、真の幸せの生き方へ導いたり全ての心の傷を治したりする「医師」がこの世に生まれた、恵みに満ちた日だと教えてくださいました。この降誕祭の奇跡に感謝の気持ちを込めて祝いましょう。皆さん、主のご降誕おめでとうございます！

手芸の会夏のハンドメイド教室 8月6日(日)、22日(火)

みんなでお昼を作って食べた後、ミシンを使ってオリジナルバッグを
作りました。



*写真はすべてはずしています。

アベイヤ司教様、笹丘へ 8月26日(土)夜ミサ、27日(日)朝ミサ

(7時半)、主日ミサ(10時)、アベイヤ司教様の司式で
ミサが行われました。お説教ではキリスト教の基本の教えに
沿った行いを実行するよう力強く説かれました。また、土曜のミサ後には、4年ぶりに開催さ
れたアウグスチノ祭にも参加していただきました。喜びに満ちあふれたひとときでした!!



アウグスチノ祭
開催

*写真ははずしています。

ヨーヨー
釣り
子どもた
ちは大
はしゃぎ

アベイヤ司教様と

絵しりとリクイズ

*写真ははずしています。

夏休みで帰省した学生
が顔をそろえました

暑いけど楽しい焼き係
青年が活躍しました

スイカ割り 命中かな?

笹丘ファミリア合唱団
素晴らしいハーモニー～

七五三祝い 11月12日(日)おめでとう!! 感謝!!

これまでの成長を祝って
これからも健やかに
成長することを願って



祝福の恵みを受けました

*写真ははずしています。

0才から12才のお友達が祝福を受け
メダイと千歳飴をいただきました

クリスマスバザー 12月10日(日) 季節外れの暖かさを感じる日でした。今年は4年ぶりにカレー、豚汁など食事のコーナーも準備でき大盛況でした。数か月前から活動してきた手芸の会のコーナーでは素晴らしい作品がずらりと並んでいました。

顔が写っている写真はすべてはずしています。

宣伝部隊、新人？も加わり見事なチームワーク



笹丘ファミリア合唱団



アドベントカレンダーお菓子が入っています工夫がいっぱい！夢いっぱい！

たくさん子どもたちがクリスマス工作に挑戦しました

青年会 綿菓子も大人気

神学院で育てた大根 感謝の気持ちでいただきました



カレー、豚汁 大盛況！

聖堂では2回に分けてトーンチャイムのコンサート

平和の祈願祭 8月11日(金・祝) 大名町教会にて

福岡教区その他行事報告



久しぶりに平和の集いに参加をしました。まず、最初に心に残ったのが、会の始まりで担当の井出神父様が言われた「平和は面倒くさい思いをしないと実現しないこと」という言葉でした。「平和」・・・というと、戦争が起こらないことと考えますが、それだけでない「すべての人が大切にされること」、そのためには、面倒・・・と思うこともやってみることが大切だと再認識させられました。(参加者 I.K)

桑原篤史神父様 女性の会講演会 10月14日(土) 大名町教会にて

講演会にはたくさんの方に来ていただきました。

椅子が足りなくて追加したり、会場はいっぱいの人でした。

叙階式の感動が思い出され、神父様の温かいお人柄もあって

楽しいお話で会場も和やかな雰囲気でした。神父様の経歴の

中であつたアウグスチノ会との出会い、そして色々ボランティアを

された中での、たくさんのお会いがあつて今の神父様があるのではないのでしょうか。テーマにあつた「私の示す地に行きなさい」という言葉、私たちは神様に導かれ、そして神父様にその道を教えていただきながら、毎日の生活でその道を歩いて行きたいと思います。(女性の会 K.H)

写真ははずしています。

第14回福岡市民クリスマス 12月1日(金) 福岡市民会館(カトリック、プロテスタント共同企画)

気温が下がった寒い日でしたが、会場に入るなりスタッフの方々の温かな歓迎を受けました。ヒルデン神父様、桑原神父様お揃いでお越して(写真)。催しは福岡女学院のハンドベル、クワイアチャイムの演奏。音色がきれいでとても癒されました。講演は田口昭典牧師様のお話。腹話術で観客を惹きつけ、ご自分の体験談を涙ながらにユーモアを交えて語っていただきました。寒かったせいか会場は半分も埋まらなかったように見えました。この企画は一般に向けた布教活動としてとても大事なものだと感じ、もっと「面倒だ」と思うくらいの行動をとらねばと思いを巡らせました。(参加者 N)

写真ははずしています

市民会館内 スタッフのF氏と

最後の 神学院祭



11月3日(金・祝) 2023年テーマ「タリタ、クム」(起きなさい)

今年の神学院祭は雲ひとつない晴天の下行われました。ここ福岡では最後の神学院祭。開会式後のミサでは、司式された中村大司教様が「奇跡が起きました」と言われるほど大勢の神父様方、シスター方、そして信徒たちが大集合しました。1600枚用されたというご聖体が全く足りず、私自身も何度も並び直し、やっと一つのご聖体を四つに割ったものをいただきました。思わず五つのパンと二匹の魚が五千人の人々に分けられた聖句が思い出され、一層大きなお恵みを実感しました。参加された方はどなたも「満腹」になったのではないのでしょうか？ミサのお説教では森山司教様が福岡神学院の歴史に触れながら、「タリタ・クム」にちなんで「復活するのは死者だけではありません。私たちも日々の生活の中で死と復活を繰り返しています。真の復活を目指して毎日生きているので、倒れても何度でも立ち上がり、また人を立ち上がらせる人にならなければいけません。」ということを話されました。奇しくもその日はアベイヤ司教様のお誕生日ということで、全員で「ハッピーバースデー」を大合唱したことも心に残りました。長い歴史を持つ福岡の神学院が閉校になることは本当に寂しいですが、また日本カトリック神学院としての新たな出発。この地から巣立った神父様方、学びの途中の神学院生たち、養成者の方々、ゆかりのシスター方のために今後のご健康とご活躍をお祈りいたします。(取材 A)

牧山強美神父様の講演会 聖堂は人で埋め尽くされていました。神学院はこのまま保存されます、ご安心ください・・・神父が不足するなど心配せず信者自らもっと外に向けた行動を起こしていきましょう、と結ばれました。

教会学校紹介

9月からI.Fさんが教会学校の
幼児クラスを担当して下さることになりました。

マリア・エリザベトI.Fさん
ノートルダム・ドウィ在俗会員

テーマは「信仰のめざめー神様に会う」です。救いの業の大事なところを扱います。心を静める歌で始まり、その日のテーマのみ言葉を心に響かせるシルエットを少しずつ導入します。対話形式で神秘に触れていく・・・祈りと歌で終わります。み言葉が更に浸透するように、色塗りや工作をします。家に持ち帰りお祈りの場に飾り、毎日お祈りして神様と親しくなることを目指しています。

第1回 神様あなたは
どなたですか？
私を知り、
愛して下さる
神様に会う



第3回 神様、あなたは、わたし、
ぼくの心に
いるのですか？
神様に触れる
(祈りのコーナー作り)



神が住む心のお城(大聖テレサ)作りと祈りの門

第4回 神様は、どのよう
にこの世界に来られる
のですか？
天使のお告げ=
喜びの「はい」

人間になら
れる神様を
待つ



第2回 神様、あなたはすべてを創られたのですか？
創造主の神様(世界と人)を発見する



第5回 クリスマス、ようこそイエス様
わたし、ぼくの心にイエス様を受け
入れる儀式



イエス
様を
与り
願い
を込め
ました

船橋先生の熱いお話を聞いた後そのお話の内容に沿ったぬり絵をしました その集中力は素晴らしい！！



フランスの教会をたどる その2

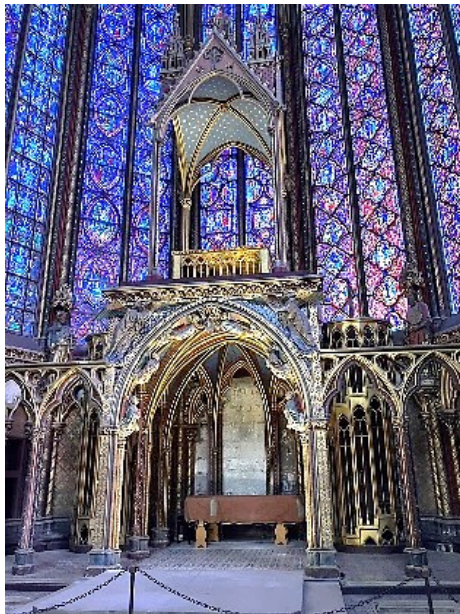


サント・シャペル

ノートルダム大聖堂からわずか数百メートルしか離れていない場所にサント・シャペルという教会があります。1242年から1248年にかけてルイ9世(1226年~1270年在位、その後「聖ルイ」と呼ばれます)により、キリスト受難の聖遺物を保管するために建設されました。



サント・シャペル内の様子。キリスト受難の聖遺物が保管されていた台が奥に見えます。



キリスト受難の聖遺物が保管されていた台が上の段にあります。

この教会の最大の特徴は、ハッとさせられるほど美しい15枚のステンドグラス窓であります。それぞれ高さ約15メートルで、太陽の光が差し込むときらめく青・赤・紫・黄色を一度見れば、一生忘れられない「世界一美しい教会」と言っても過言ではありません。

訪れた日は平日だったにもかかわらず、観光客が多く入場するには1時間ほど待たなければなりません。教会は1階と2階があり、下層は天井が低く壁の青と赤の塗装が印象的です。それから非常に狭い階段を上ると、高くそびえるステンドグラス窓を飾る広い上層礼拝室にたどり着きます。

最初は思わず息をのみます。まるで輝く宝石に囲まれた空間にいるかのような体験で、よく見れば「壁」がなく天井が柱のみで支えられています。

15枚のステンドグラス窓に旧新約聖書の計1113の場面が美しく描写されています。「創世紀」や「出エジプト紀」、また最も重要な「キリスト受難」などイエスの復活までの人類の歴史が目の前に広がります。それぞれの窓があまりにも高すぎて、上にある絵を見るために目を細める人が少なくないですが、下から絵を一つひとつ見ていくと、話の筋がちゃんと理解できるように作られています。

正面に高さ約3メートルの台があり、この上に「いばらの冠」や十字架の破片、キリストの磔刑(たっけい)に使われていた釘といった聖遺物を入れた金製の箱が置いてあった場所があります。フランス革命が終わってから1806年にそれぞれの聖遺物は近くのノートルダム大聖堂に移管されました。

いばらの冠が教会を装飾する彫刻に表現されています。





五島の信仰
を受け継いで

信仰のルーツ Q&A

21 班 マリア A.T さん

昨年、お子さん、お孫さん計4名が受堅された竹山愛子さんに今回はインタビューさせていただきました。

祈りの原点
である曽根
教会



現在

Q.五島で生まれお育ちになったと伺いました。どのような生活でしたか？

A. 当たり前のように毎日教会に通い、「学校の勉強より宗教の勉強をしない」という環境で育ちました。教会は、吹きさらしの立地の曽根教会に通ってました(写真)。重要な行事、秘跡を受けるときは青砂ヶ浦教会に歩いてたまに船に乗って・・・2時間くらいかけて行っていました。気分が悪くなっていましたね。NHK 連続朝ドラで五島が舞台になった「舞い上がり」が放送されていた時、北魚目小学校が紹介されましたが、そこは私が通っていた小学校でした。その周辺の映像も懐かしかったですね。
昭和51年に結婚しました。3組合同の式でした(写真)。



曽根教会の地鎮祭
昭和38年頃



当時の結婚式
の様子

Q.ご結婚されて福岡に移られたということですね？福岡に来てどうでしたか？

A. 福岡に来て初めての教会は吉塚教会で、カーテン神父様でした。ミサで「これは神様の御血である」とワインの回し飲みにはびっくりしました。なにせ人生初の体験でしたから。福岡の教会はすごいと感じました。福岡に来て、五島の生活はまるで隠れキリシタンの



Q.福岡に移られて教会から遠のいた時期もあったのですか？

ようだったと気づきました。

A. 昭和56年11月、二人目を出産した頃、早良区 A 町に家を建てましたので、それからは西新教会に移りました。子どもの初聖体、堅信は親子で教会学校の聖書の勉強に励み、自ずと教会の行事等も手伝っていました。その後夫が病に倒れ私が働き始めたので、教会から遠のいていきました。

Q.そんな時期に森山信三神父様(現司教様)との出会いがあったとのことでしたね？

A. 私が介護施設で働いていた時、レクリエーションを担当していて、歌体操をしたり、童謡や昭和の歌、讃美歌などを歌っている最中、大変興味深く見ておられた男性訪問客がいました。入所されている信者さんにご聖体を授けにみえていた当時西新教会主任司祭の森山信三神父様だったのです。私に近づき「あなたは信者さんですか？よかことしておられますねー」と言葉をいただきました。私の信仰を目覚めさせる神父様、神様でした。それからは教会に通うようになり、長男も教会行事や青年部で活躍しました。森山神父様は型破りで面白く、家の建て替え時は神父様に地鎮祭をしていただき、ともに会食をしていた時、私の次男(当時大学2年)に「爽やかな青年よ、ちょっと話そうや」と。話は大変盛り上がり、見込まれた次男はその年のワールドユースデイスเปน巡礼に行かせてもらいました。それからはその報告活動などで活躍しました。神様に導かれましたね。

Q.素晴らしい出会いでした。やはり導かれているようですね？

A. 先祖から受け継がれた命と宗教。聖堂にいると気持ちが落ち着きます。クリスマスが来ると嬉しい。なぜなら教会が明るくきらびやかになり、主のご降誕を祝う歓喜に満ちあふれる…。それがまるで夢がかなうかのような幸せを実感するからです。信仰が確実に受け継がれていることを神に感謝しています。(聞き手 西山)



青砂ヶ浦天主堂
行事時に通った教会
(国指定重要文化財
1910年8月竣工)



北魚目小学校
(現在)

右の写真は小学校
から見下ろした風景



昭和37年頃の小学校入学式の時期は雪が降ることも珍しくなかった。通学途中、学校近くの同級生宅で暖を取らせてもらって着替えて入学式に臨んだ

元気でーす！！ 侍者仲間の近況

8月27日現在

夏休み帰省した際、侍者をされたお二人に伺いました。

ヨハネ N.S さん

写真ははず
しています。

3月に京都市に引っ越し、この4月から専門学校で建築を学んでいます。前半は高校で学んだことの復習といった感じでした。毎日自炊もして、慣れてきたところです。カトリルの河原町教会の土曜の夜ミサに通っています。侍者は務めていません。やり方も違いますし。

パウロ K.F さん

写真ははず
しています。

こんにちは。昨年9月に、ハンガリーのブダペストの ELTE 大学にコンピュータ科学専攻に学部進学しました。世界中から集まる留学生と一緒に英語の授業を受けながら早くも1年が経過して、日々の生活にもようやく慣れてきました。駅近くで賑わうパン屋さんに通うことが毎日の楽しみですが福岡で買った粉末の出汁を使ってタイ米を鍋で炊くことも日課にしています。ハンガリーはウクライナの近隣国で、僕が通う大学にはウクライナ人留学生がたくさんいます。僕が住むアパートのルームメイトにもウクライナ出身の方がいて、医学生としての道半ばで祖国を追われて心理学を専攻する大学生や、家族を支えるためにブダペストの企業に就職する大学院卒業生と一緒に生活しています。去年は勉強が忙しく、現地の教会の外観ばかりを楽しんでいた1年でしたが、今年はちゃんと教会の中に足を踏み入れて、現地の人たちと共にミサに与りたいと思います。(近隣の教会: St.Teresa of Avila Parish Church 聖テレサ・アヴィラパリッシュ教会)

笹丘教会に通う皆様方にも、主の平和がありますように！

主のご降誕、おめでとうございます。

笹丘カトリック幼稚園行事紹介



運動会 10月7日(土)

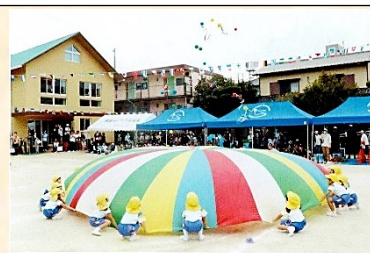
笹丘幼稚園で運動会が催されました。今年は4年ぶりにコロナ禍以前と同じ状況での開催となり、大勢の家族の皆さんが報道カメラマンのような立派なカメラを手にお子さんの姿を収めていました。

年少さんから年中さんのかげっこでは、合図の前に走り出してしまう子や、スタートからゴールまでずっと泣きながら走っている子など、

とてもかわいらしかったです。そして年長さんの息の合ったマーチングやリレーは、幼稚園での3年間の成長ぶりを感じさせる立派な姿でした。

ヒルデン神父様が常におっしゃる通り、子どもたちから元気をもらうということを実感しました。

(取材 藤渕)



見事に広がり膨らみました

写真ははず
しています。

写真ははずしています。

教会学校クリスマス会 12月3日(日)

4年振りのクリスマス会!子どもたちは元気いっぱい!!

★ ★ ★ 喜びいっぱい!!

何が来るかな...
プレゼント交換

写真ははずしています。

お祝いの食卓

「クリスマス」の言葉で思い浮かぶものは? ハーイ!!!

準備してくださったお父さんお母さん方に感謝しましょう

写真ははずしています。

結婚式 9月2日(土) 笹丘教会聖堂にて

おめでとうございます!!       

モニカ S.Fさんと R.Uさん

(1班ペトロ Fさんとクララ Fさんのご長女)

聖堂にはたくさんの方が祝福に訪れました。ヒルデン神父様
いわく普段のミサより人が多かったとか...

東京にお住まいです。お幸せに!! 

異動 2023年8月~11月【敬称略】

転入 8月ビンセンシオ・ア・パウロ Y.H、テレジア M.H(茶山教会より)


転出 8月マリア・エンマヌエラ・ベルナデッタ M.Y、マリー・テレーズ・ベルナデッタ M.Y

結婚 9月9日モニカ S.F、 R.U

帰天 ~ 永遠の安息を願って兄弟姉妹のためにお祈りいたしましょう ~

写真ははずしています。

10月10日 95才 マリア・クリスティーナ T.Tさん


1班 M.Tさんのお母様 

編集後記 毎年クリスマスが近くなると、私はディケンズの「クリスマス・キャロル」が読みたくなります。大金持ちでケチで冷酷な老人スクルージの家にクリスマスの前夜、過去・現在・未来の三人の幽霊が現れ、彼のこれまでの生きざまを見せ、それを見たスクルージは心から悔い改めクリスマスの朝に善人に生まれ変わるという話です。

幼い頃、クリスマスの前夜は夜中に叩き起こされ、暗い坂道を下って教会へ行きミサに与っていました。しかしミサの途中眠くなって船を漕いでいると、後ろに座っている祖父から愛用の象牙の煙管で頭を叩かれます。でも他の孫達も同じ様にこっくりこっくり。まるでモグラ叩きです。数時間の眠りの後、翌朝また大人から起こされます。しかし前日までの静寂とはがらりと変わって「クリスマスおめでとう! 早よ起きなさい、ゴミサに行くよ!」この前日の夜中までの静寂と真逆に切り替わった明るさが、同じくクリスマスの朝に起きたスクルージの人生の転換と、私の中でカチリと重なります。

今世界各地ではクリスマスを祝うどころか、この瞬間も命の危機にさらされている多くの人々がいます。その人々に対し、安全で豊かな場所で暮らしている私たちにできることは何でしょうか。まずは祈ることでしょうが、それ以外にもっとできることはないかともどかしい気持ちでいっぱいです。しかし、ディケンズが「クリスマス・キャロル」の最後の一文に記したことを常に抱いて過ごすことが、やはり私たちに今できるすべてではないかと思えます。

「神よ、私たちをお恵みください。私たち一人一人を!」

(3班 テレジア M.F) 

発行:カトリック笹丘教会 広報委員会 2023年12月23日

〒810-0034 福岡市中央区笹丘 1-16-1

電話092-761-4504 fax092-761-4524